

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

|      |                           |      |        |
|------|---------------------------|------|--------|
| 整理番号 | 56                        | 大学等名 | 浜松学院大学 |
| テーマ  | テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー） |      |        |

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

B：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、当該大学独自の学生主体のアクティブ・ラーニングである「DiCoRes プログラム」を発展させ、地域は多くの課題提示ができるアクティブ・ラーニングの実践の場であると捉え地域課題の解決に向けて取り組むことを目的とした「DiCoRes プラスプログラム」及び「DicoRes プログラム科目群」を新たに構築し、教養科目として大学全体の基本教育科目と位置付けた上で全学での実施を実現した点は評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、ダバオ市フィールドスタディと北遠フィールドスタディの事前指導において、浜松市が抱える2つの課題を同じ授業内で紹介することで、両フィールドの相互理解を促すことにより科目間の関連性を強化させている点は評価できる。両フィールドスタディ参加者間の体験交換等を行う事で、更なる相互理解を深め、両科目間の更なる関連性の強化はもちろん、学生のプログラム理解にもつながると考えられることから、今後の実施の検討が望まれる。また、任意指標である「外部者からの支援割合」について、フォローアップにおいても目標値の未達が指摘されていたが、令和元年度においても未達となっている。この原因として、計画していた大学同窓会や教育後援会からの寄附が受けられなかったことを挙げ、今後は寄附ではなく補助金等の獲得を目指すとしているが、目標値として設定している以上、より早期に、新たな対策を講じる必要があったのではないかと考えられる。なお、資金の確保については、補助期間終了後の事業の安定的な継続に大きな影響を与えるものであることから、多様な方法での資金確保策を講じるなど、安定的な財源確保について検討することが強く求められる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、年度ごとに外部評価委員会を開催されるとともに、外部評価を含む本事業に関する全ての評価が、学長を組織長とする大学運営委員会に集約されている。しかし、全ての評価を大学運営委員会に集約するだけでなく、その評価がどのように本事業の取組改善につなげているかというPDCAサイクルが重要であるにもかかわらず、十分な説明がなされていない。評価において発見された課題への対策と改善を確実にを行うとともに、取組を更に発展させていく体制の構築が望まれる。また、補助期間終了後の資金確保については、大学内での自己資金確保以外に、外部資金の獲得や関連する補助事業への応募が検討されているが、前述のとおり、今後も取組を実施していくためには、より確実かつ安定的な資金確保が絶対的に必要である。不確実な外部資金の獲得に頼ること無く、早急な解決策を講じることが強く求められる。

事業成果の普及については、「DiCoRes プログラム」と「DiCoRes プラス」の関係性について丁寧に整理されるとともに、「DiCoRes プラス」の立ち位置、教育的効果等について分析・把握がなされていることは評価できる。一方で、成果報告会の実施や本事業特設サイトの設置等により、情報発信と取組の波及に努めているものの、その具体的な計画、実施状況とその効果について十分に説明がなされていない。積極的かつ効果的な情報発信を行うことに加え、その効果についても検証することが望まれる。